

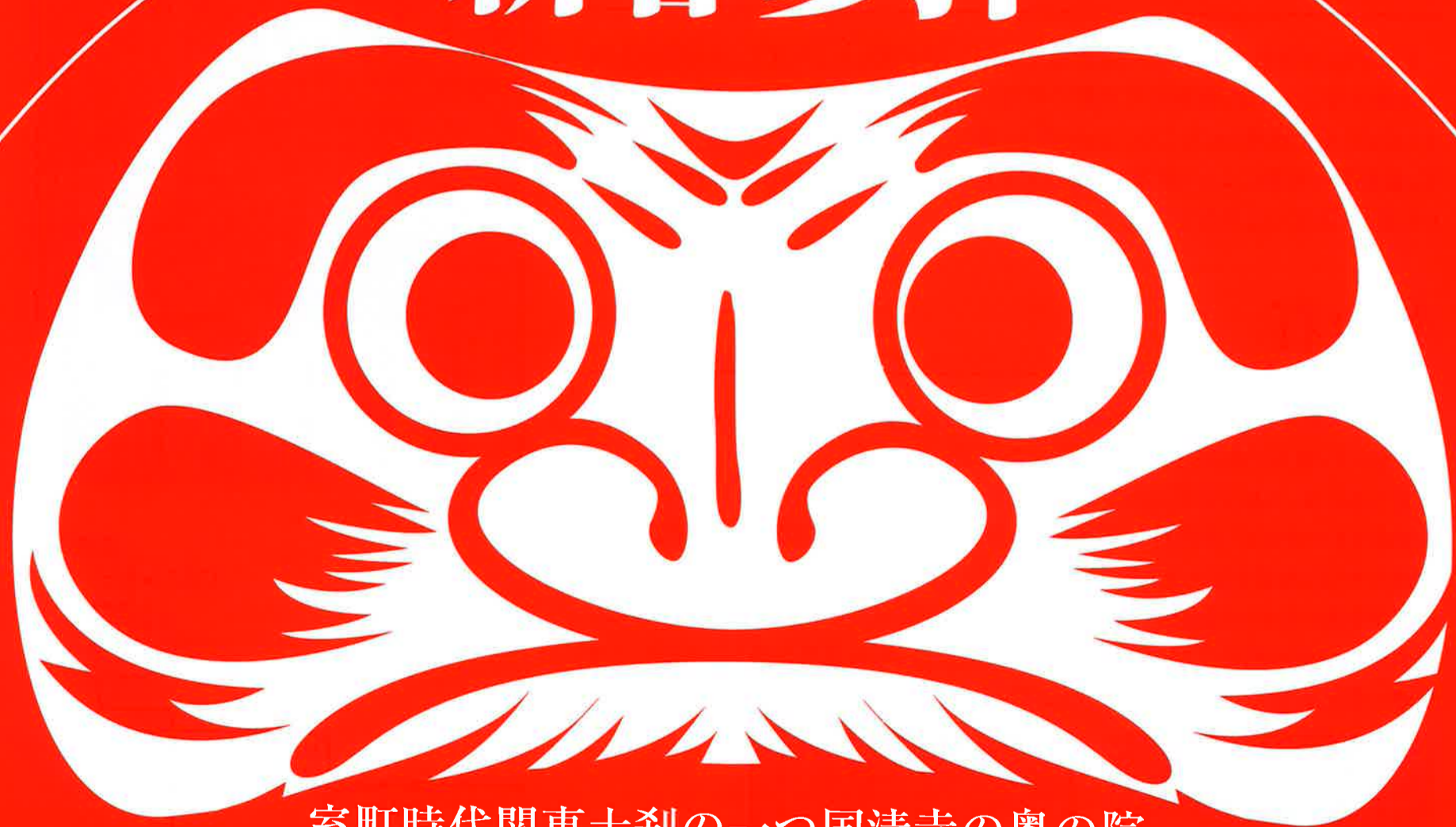


開運縁起

祭例天門沙毘

だるま市

1月3日 午前7時~9時 温かい開運そば(100食限定) 飲み物 無料
新春参拝



室町時代関東十刹の一つ国清寺の奥の院

源頼朝 戦勝祈願の

伊豆葦山
奈古谷

天門沙毘奈古谷

毘沙門堂の縁起

毘沙門堂は国清寺の鎮守として、毘沙門天をお祀りしています。

この歴史はたいへん古く、平安時代には安養浄土院(通称奈古谷寺)と呼ばれていました。承安三(1173)年、高尾上人文覚は伊豆に配流され、この寺に籠もり、寝食忘れて、修法、苦行に身を捧げたと伝えています。

この寺で文覚は、蛭ヶ島に配流されていた源頼朝と度々会い、挙兵を薦めました。頼朝は慈覚大師作の毘沙門天に戦勝祈願し、治承四(1180)年、旗揚げが成功し、鎌倉幕府を築くに至ったと言われております。

文覚は頼朝の要請で安養浄土院の一角に多聞堂(毘沙門堂)を建てました。安養浄土院は鎌倉時代以降、名称を授福寺と改め、室町以降国清寺の鎮守となりました。授福寺の廃絶後は毘沙門堂とその仁王門だけが残り、現在に至っています。

※ 国清寺(天長山)は室町時代、関東管領上杉憲顕が建立。関東十刹の一つ。
毘沙門天は国清寺の奥の院と呼ばれていた。

仁王門

仁王門には阿形、吽形二体の金剛力士像(仁王)が祀られています。この像は体内の墨書文字によれば、鎌倉時代後期の延慶三(1310)年に作られ、江戸時代の享保十(1725)年に修理されたことが分かります。またこの文には、この像は文治二(1186)年、源頼朝の発願によって運慶・湛慶の父子が作ったとも記しています。昭和50年3月25日、県指定の文化財となる。

七つ石

国清寺から毘沙門堂への参道周辺には、種字(梵字)や仏像を彫り込んだ巨石が点在していて、地元では古くから「七つ石」と呼んでいます。

七つ石には、大蛇を封じ込めたという「蛇石」、頼朝夫妻の腰掛けた「夫婦石」、手を打てばコダマが返る「谷響石」、地蔵を刻む至徳二(1385)年の「弘法石」(市指定文化財)、やはり地蔵を刻み、明德二(1391)年の「大日石」(市指定文化財)、文覚上人が護摩を焚いたという「護摩石=別名硯石」、えぼしに似ている「冠石」があり、他にも阿弥陀三尊像や乾元二(1303)年の地蔵像など、多くの石造物が残されており、この地域一帯が密教の一大道場であったことを偲ばせています。



護摩石



蛇石

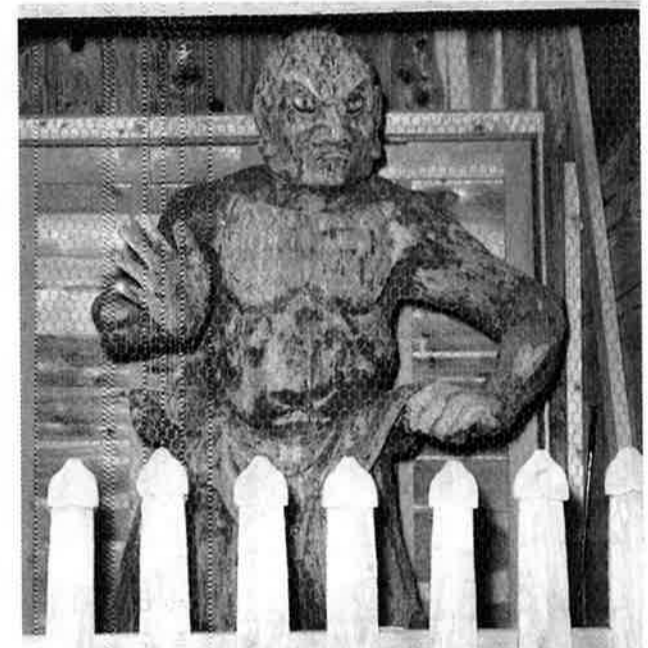
写真:旧葎山町発行パンフより



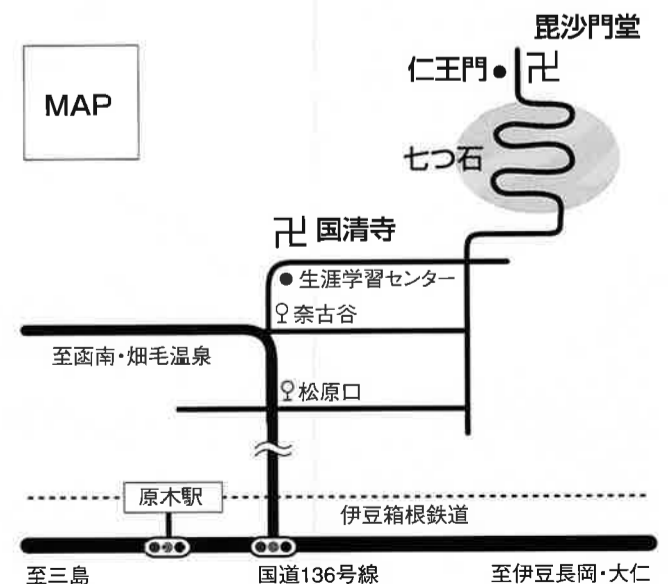
国清寺



毘沙門堂



仁王像



問い合わせ:国清寺(高岩院)

TEL.055-949-0125

後援:伊豆の国市商工会 協賛:伊豆箱根鉄道(株)